

幼児同士が共通の目的を見いだして遊ぶようになるための
環境構成と援助の工夫
～思いやイメージを伝え合いながら遊ぶことを通して～

八重瀬町立東風平幼稚園教諭 本部 笑子

I テーマ設定の理由

近年、少子化や核家族化、情報化の進展による社会の変化が幼児の生活や遊びに影響を及ぼしている。テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴い、家庭や地域において、異年齢の友達とかかわって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人とかかわる機会が減少している。その現状を踏まえ、集団生活の場である幼稚園では、教師や友達と過ごす楽しさを十分に味わう中で、自分の思いを伝え、相手にも思いがあることに気づき、その思いを受け入れて遊ぶようになることが大切だと考える。

幼稚園教育要領解説（以後、本文では「要領解説」という）「人間関係」の領域、内容(8)に「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」と示されている。幼児は、友達との関係が深まるにつれて、自分の思い描いているイメージを相手に伝え、共有しようとする。イメージを共有していく中では、自分の思いや考えを相手に伝えたり、自分と相手とのイメージのくい違いから起こるトラブルに折り合いをつけたりすることを経験する。このような経験を積み重ねていくことで、幼児は、友達と共通の目的の実現に向けて工夫したり協力したりする楽しさを味わいながら、遊びや活動を展開していくと考える。

本園は2年保育を実施し、4歳児からの進級児が29%、保育園からの新入園児が50%で、全体の79%の幼児が集団生活の経験があり、進級・入園前から友達とかかわる経験をしている。しかしながら、自分の主張を通そうとして友達の思いを聞かずに遊びを進めようとする幼児や、自分の思いが伝えられずに遊びから抜けてしまう幼児がいる。また、遊んでいる中で、互いのイメージのくい違いからトラブルになり遊びが継続しないこともある。このような姿から、幼児同士が互いに思いやイメージを伝え合いながら遊びを進めていくことに課題がみられる。

これまでの保育を振り返ると、幼児が互いに伝え合っている姿を捉えながら、遊びが展開できるような援助を行ってきた。しかし、遊びや活動の展開に目が向いてしまうことが多く、一人一人の思いや考えを引き出すことや友達との考えの違いに気づき、葛藤や折り合いを付けることを経験しながら、友達の考えを受け入れて遊ぶようになるための援助が十分ではなかった。また、幼児同士が思いを伝え合いながら、遊びを生み出す環境構成が十分にできていなかったと考える。

そこで、本研究では、幼児が友達と思いやイメージを伝え合いながら遊ぶ中で、友達の思いを受け入れ、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりしながら遊ぶようになるための環境構成と援助の工夫を探っていきたいと考え、本テーマを設定した。

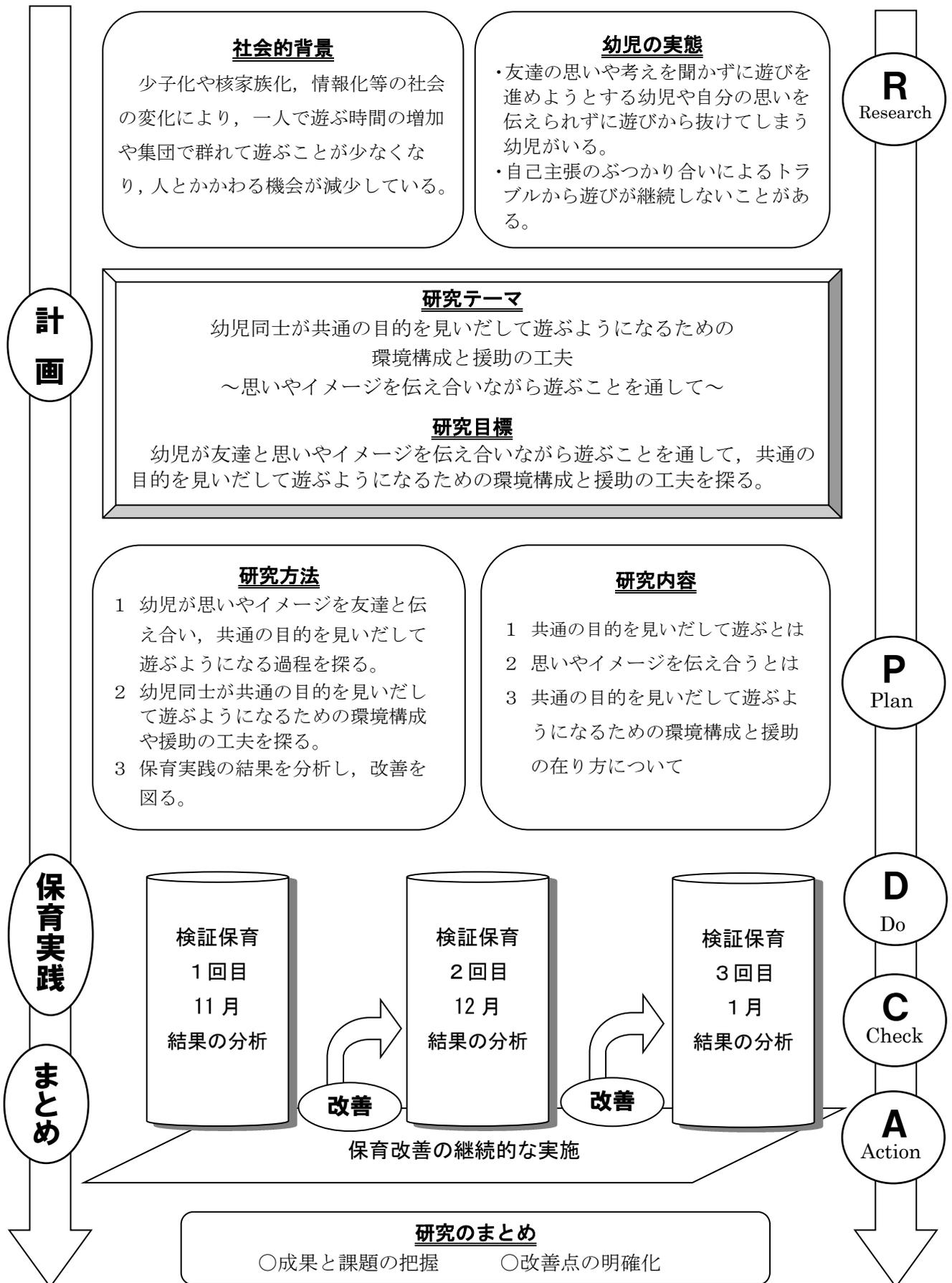
II 研究の目標

幼児が友達と思いやイメージを伝え合いながら遊ぶことを通して、共通の目的を見いだして遊ぶようになるための環境構成と援助の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 幼児が思いやイメージを友達と伝え合い、共通の目的を見いだして遊ぶようになる過程を探る。
- 2 幼児同士が共通の目的を見いだして遊ぶようになるための環境構成や援助の工夫を探る。
- 3 保育実践の結果を分析し、改善を図る。

IV 研究の構想図



V 研究内容

1 共通の目的を見いだして遊ぶとは

要領解説では、「入園当初の幼児は、他の幼児と一緒にいることや同じことをすることで、人と共にいることの喜びや人とつながる喜びを体験する。その後、自分らしさを十分に発揮し、次第に仲の良い友達と思いを伝え合いながら、遊びを進めるようになる。その中で、自分の世界を相手と共有したいと願うようになる。そして、イメージや目的を共有し、それを実現しようと、幼児たちが、ときには自己主張がぶつかり合い、折り合いを付けることを繰り返しながら、工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わうようになっていく。」と示されている。また、友定（2008）は、「共通の目的」について「一人ひとりの幼児がそれぞれの思いやイメージを出し合い、調整しながら実現していくこと」と述べている。つまり、幼児同士が思いやイメージを出し合いながら、目的の実現に向けて活動する中で、いざこざや葛藤に折り合いをつけることや友達と活動することの面白さ、目的が実現した時の喜びや充実感などを味わう。そして、その経験を積み重ねることで、気の合う友達だけではなく、いろいろな友達と遊ぶことや学級全体で活動することに発展していくと考える。人とかかわる力の基礎を育む幼児期に、友達とのかかわりを深め、友達が好きになる、友達と仲間になる、友達と育ち合うという経験を重ねていくことが重要であることから、幼児同士が互いの思いやイメージを出し合い、共通の目的に向かって遊ぶことは必要であると考えられる。

幼児が入園してから共通の目的に向かうようになるまでの発達の過程は、要領解説の教育課程の編成にも示されており、教師は、幼児が入園、進級してから修了に至るまでの長期的な発達の見通しをもって保育を展開することが重要だと考える。本園でも幼児の発達の過程を捉え、各期において必要な経験ができるよう見通しをもって保育を行っている。表1は、本園の教育課程における5歳児の発達の過程である。幼児の発達の過程を長期的に捉え、各期にふさわしい具体的なねらいや内容を設定し、幼児の望ましい発達を促している。幼児の発達の過程には個人差があることを考慮し、幼児の実態を把握し、発達に応じた援助が必要であると考えられる。本研究では、幼児がⅠ期からⅢ期の発達過程を通過しているかを見極め、発達の過程を通過するために必要な経験ができるよう配慮しながら、Ⅳ期からⅤ期につながる発達の過程を中心に研究を進める。

表1 本園の教育課程における「5歳児の発達の過程」

期	発達の過程
Ⅰ期(4月～5月)	・教師とのかかわりの中で安定する(新入園児) ・慣れ親しんだ環境にかかわる中で安定する(進級児)
Ⅱ期(6月～7月)	・気の合う友達とのかかわりの中で安定する ・互いの思いを言葉で伝え合う
Ⅲ期(9月～10月)	・仲間意識が芽生え、友達と共に生活する楽しさを知っていく ・友達と遊ぶ中で、好奇心や探求心が深まっていく
Ⅳ期(11月～12月)	・友達とイメージを共有しながら遊びを楽しむ ・友達と共通の目的を見いだし工夫したり協力したりして実現していく
Ⅴ期(1月～3月)	・学級の仲間と協力し合いながら目標や課題に向かって遊びや活動を進めていく

幼児同士が互いの思いやイメージを出し合い、共通の目的の実現に向かっていく過程で、以下に示されている経験を重ねながら遊びや活動を進めていくことが大切である。

- | | |
|------------------------|---------------|
| ・相手の思っていることに気付き、受け入れる | ・友達のよさや特性に気付く |
| ・自分らしさを十分に発揮し、友達に認められる | ・葛藤やつまずきを味わう |
| ・自己の思いを主張し、折り合いを付ける | ・共に楽しみ、共感し合う |

上記の経験は、幼児同士が主体的に遊ぶ中で、自ら気付いたり味わったりするものと、教師がその場面にかかわることで、幼児が気付いたり味わったりするものがある。そのような経験を積み重ねることで、友達との関係が深まり、共通の目的の実現に向かって、工夫したり協力したりする楽しさを味わうようになっていくと考える。

2 思いやイメージを伝え合うとは

国立教育政策研究所「幼児期から児童期への教育」(2005)によると「幼児同士が、感じたことや考えたことを互いに言葉や動きで伝え合い、考え合いながら、目的を共有して遊びを進めていくことにより、更に遊びは発展していく。こうした遊びの発展の過程において、幼児同士の伝え合いや考え合いは欠くことのできないものであり、その際には幼児同士のやり取りに沿った教師の適切な援助が必要である。」とある。幼児は気の合う友達ができると、その友達に自分の思いやイメージを伝え、自分の世界を相手と共有しようとする。しかし、一方的に主張することで、いざこざや葛藤を体験する。そのような場面に教師が丁寧にかかわり、互いの思いを十分に引き出し、幼児の言葉を整理して伝えたり、相手の思いに気付けるような場を作ったりすることで、幼児は相手にも思いがあることに気づき、折り合いをつけ、相手の思いを受け入れるようになり、次第に、伝え合いながら遊びや活動を展開していくようになると考える。よって、本研究では、幼児が相手の思いや考えに気づき、受け入れるようになるための教師の援助や友達とイメージを伝え合い、遊びを進めていくための環境構成を行っていく。

3 共通の目的を見いだして遊ぶようになるための環境構成と援助の在り方について

要領解説に、環境構成について「幼児が自分を取り巻いている周囲の環境に意欲的にかかわり、主体的に展開する具体的な活動を通して様々な体験をし、望ましい発達を遂げていくよう促すようにする」と示されている。教師は、幼児の活動の展開に沿って、幼児の発達に意味のあるものとなるような環境を構成していく必要がある。教師の援助においては、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児一人一人に対する理解に基づき、幼児の主体的な活動を通して、着実な発達を遂げていくために、幼児の活動の場面に応じて様々な役割を果たさなければならないと示されている。また、幼児同士のトラブルに教師が丁寧にかかわることによってプラスの経験に転化することから、教師の援助は大きな役割をもっていると考える。そこで、表1「5歳児の発達の過程」に沿って、幼児が共通の目的を見いだして遊ぶことにつながる経験と具体的な環境構成や教師の援助についてまとめた。(表2)

表2 発達の過程に沿った共通の目的を見いだして遊ぶことにつながる経験と環境構成や教師の援助

発達の過程	「共通の目的を見いだして遊ぶ」につながる経験	環境構成	教師の援助
【Ⅰ期 (4月～5月)】 ・教師とのかかわりの中で安定する ・慣れ親しんだ環境にかかわる中で安定する	・園内外の様々な環境にかかわり、気に入った場や遊びを見つけて気持ち安定する ・教師や友達のしている遊びに関心をもち、同じことをする	・幼児が遊びたいような遊具や用具などを用意し、様々な環境に出会えるようにする ・自分の居場所を見つけて遊べるように場や時間を確保する	・一人一人を温かく受け止め、触れ合う中で安心感を与え、信頼関係を築いていく ・幼児の気付きや驚き、感じたことを十分に受け止め、共感する
【Ⅱ期 (6月～7月)】 ・気の合う友達とのかかわりの中で安定する ・互いの思いを言葉で伝え合う	・友達に関心をもちようになり気の合う友達とのつながりが生まれる ・色々な素材や用具に関心をもち、取り入れて遊ぶ	・場や動線に配慮したり遊具の数を調整したりして、幼児同士のかかわり合いが生まれるようにする	・遊びに加わり、幼児同士のつなぎ役となるようにする ・思いを十分に聞いたり言葉を付け加えたりするなどして、言葉で表すことができるようにする
【Ⅲ期 (9月～10月)】 ・仲間意識が芽生え、友達と共に生活する楽しさを知っていく ・友達と遊ぶ中で好奇心や探求心が深まっていく	・気の合う友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ ・色々な遊びにかかわる中で、試したり工夫したり、挑戦したりしながら遊びに取り組む	・少人数で活動する楽しさが味わえるような機会を作る ・色々な遊びの中で友達の刺激を受けたり、挑戦したりできるような場や時間を保障する	・幼児が自分の思いを出しやすいように少人数での遊びや活動を大切に捉え、見守る ・幼児一人一人がⅠ期、Ⅱ期の発達過程を通過しているかを捉え、個に応じた援助をする
【Ⅳ期 (11月～12月)】 ・友達とイメージを共有しながら遊びを楽しむ ・友達と共通の目的を見いだし工夫したり協力したりして実現していく	・友達と思いがぶつかり合い、葛藤を体験する ・友達の思いに気づき、受け入れ、気持ちを調整しながら遊ぶ ・友達と遊びのイメージを出し合い、共有しながら遊ぶ	・学級で遊びの紹介や個々の思いを話せる場を設定し、みんなで共有できるようにする ・幼児のイメージに合った道具や用具を提供したり一緒に探したりする ・学級全体で共通に体験できる場を多く設定する	・幼児同士のトラブルを大切に捉え、相手の思いに気づき、受け入れながら、遊びや活動を進めていけるよう仲介役となる ・幼児同士の思いや考え、イメージを十分に引き出し、つないでいく ・目的が実現するようにアイデアを提供したり一緒に作ったりする
【Ⅴ期 (1月～3月)】 ・学級の仲間と協力しながら目標や課題に向かって遊びや活動を進めていく	・友達とイメージを共有し、共通の目的に向かって工夫したり協力したりする ・思いや考えを出し合い、折り合いを付けながら遊びを進める ・クラスやグループでの活動に意欲的に取り組み、自分たちで遊びや活動を進める	・学級で遊びや活動を振り返り、全体で話し合えるような場を多くもつ ・教師が幼児の興味や関心を捉え、テーマを与えることで、共通の目的が生まれ、実現に向けて取り組めるような機会を設ける	・幼児同士で考えたり伝え合ったりしながら、自分たちで遊びを創り出す楽しさや面白さが味わえるよう、遊びを見守ったり必要に応じて仲介役となったりする ・遊びの中で、自分が受け止められ認められる嬉しさが感じられるような場面を捉えて、伝えていく

VI 研究の実際

1 検証保育（1回目 11月）

(1) 設定理由

気の合う幼児同士が、思い描いているイメージを出し合いながら遊びを楽しんでいるが、互いに自分の思いや考えを主張したり考えやイメージがくい違ったりすることでトラブルになることがある。今回の検証では、幼児が友達の思いに気付き、受け入れ、イメージを共有しながら遊びを進めていくことができるような環境構成と援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

友達の思いや考えを受け入れ、イメージを共有しながら遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 検証のねらい

思いや考えを出し合いながら遊ぶ中で、友達の思いに気付き、受け入れ、イメージを共有しながら遊ぶことができる環境構成と援助の工夫をする。

(4) 検証保育の結果

実践1「友達と思いや考えを出し合い、イメージを共有しながら遊ぶ」

幼児の姿(11月28日)

- ① 気の合う男児4名が、ドラゴンボールショーをしている。ドラゴンボールのアニメを見たことのあるK男とA男がストーリーやキャラクターをY男とS男に言葉や動きで伝えている。
- ② 悟空役のK男とベジータ役のA男が「フュージョン」という技を再現しているがそれぞれのイメージが異なりどちらも譲らず自分の意見を通そうとしている。
K男「フュージョンは、腕を回してから指を合わせるんだよ。」
A男「違うよ。言いながら、腕を横にして指を合わせるんだよ。」
K男「見たのと違うし…この方がかっこいい。」
A男「僕が見たのがいい! その方が指と指が合うんだよ。」
動きを加えながら、自分の考えを主張している。Y男とS男はドラゴンボールのアニメを知らないことから、何も言えずに二人のやりとりをじっと見ている。
K男「じゃーどうする…」
A男「僕が言ったのがいいし!」
やはり二人はどちらも譲らず、主張を続けている。
- ③ 教師は、その状況を捉え、仲介役となり「フュージョン」という技のイメージが共通になるようにする。
教師「もう一度、フュージョンをやってみて。みんなで見てみよう。」
それぞれの「フュージョン」をみんなで見る場を作り、異なる動きを確かめ合えるようにする。
その後、二人の「フュージョン」の違いを言葉や動きで振り返り、思いや考えを話す場を作る。
教師「二つはできないんだよね…どうしようか?」
Y男「K男のやり方がかっこいいね。でも、A男が言った“フュージョン”って言いながらやるのもいいね。」
- ④ A男「じゃー、二人の合わせよう!Y男が言ったように、言いながら腕を回そう!」
Y男がどちらの意見も受け入れたことで、両者は納得し、動きが決まった。
二人のやりとりを不安そうに見ていたS男も賛成し、遊びを続けた。

教師の読み取り

① 話を聞いたり分からないことを尋ねたりしながら、ドラゴンボールのイメージがふくらんでいる。気の合う友達同士ということもあり話が伝わりやすい。

② 互いに自分の考えを相手に分かるように伝えたいという思いが強く、言葉や動きで表現している。



③ 技を見せ合うことで、互いの違いがはっきりと分かり、どちらにするか考え合える場になった。

④ Y男が両者の意見をくみ取り、どちらも受け入れられたことで、自分の気持ちに折り合いがつけられたのだろう。

環境構成(★)と教師の援助(◎)

- ★ それぞれの動きを見せ合ったり確かめ合ったりできる場を設け、遊んでいる幼児全員で決めていけるようにする。
- ◎ イメージのくい違いから起こるいざこざや葛藤には、一人一人のイメージを十分に引き出したり、動きや言葉を整理して伝わりやすくしたりするなどして焦らず丁寧にかかわる。

実践1の分析

互いの思いやイメージを十分に引き出し、教師が決めるのではなく、幼児同士でじっくりと考え、話し合う時間を設け、言葉や動きで伝える援助をしたことで、自分の気持ちに折り合いをつけ、一人一人が思い描いているイメージを一つのものにすることができた。

実践2「相手の思いや考えに気付き、受け入れながら遊びを進める」

幼児の姿 (11月30日)

- ① ドラゴンボールのストーリーが共通になりキャラクターになりきって、演じる楽しさや客に見てもらおう嬉しさを感じている。
Y男はイスを用意し、A男・Y男は帯やリストバンドを身に付けたり、必要な道具を運び、場をセッティングしたりしている。K男は「ドラゴンボールショー始まるよ」と客の呼び込みをしている。
- ② 場のセッティングや衣装準備の最中に招待された客が来る。その後も準備に時間がかかってしまい、客が待ちきれず帰ってしまう。そのことが不満で言い合っている。
教師「お客さんが帰ってしまっって残念だね…」→**共感**
「何でお客さんは帰ってしまったのかな？」→**振り返り**
A男「K男が勝手に始まるよって言ったから、お客さんが集まってきたんだよ。」
S男「まだ準備中だったのに…」
Y男「イスもまだ準備してなかったよ。」
K男「早くやりたかった。みんなに早く見せたかったのに…」
教師「じゃあ、どうすればよかったのかな？」→**考え合えるような言葉かけ**
A男「K男が自分勝手にするから…」 K男「自分勝手じゃない。」
教師「ショーをするには、みんなの準備が必要なんだよね。お客さんは、準備している長い時間、ずっと待たされると嫌になっちゃうかもね。」
→**客の立場からの感想** **他者の考えに気付かせる**
K男はうつむいて、だまっている。
- ③ S男「K男も準備してからお客さんに来てって言えばいいんだよ！」
Y男「そうだよ。みんなでやれば早く準備できるよ！」
K男は、二人の意見に納得し、準備を始める。

教師の読み取り

① 一人一人がドラゴンボールショーに必要な自分の役割ややりたいことを見つけて進めている。

② それぞれが自分のやりたいことを進めていったため、進め方が共通になっていないことからトラブルになったのだろう。



③ 友達との遊びを続けたい思いから思いや考えを伝え合い、みんなでトラブルを解決しようとしている。

環境構成(★)と教師の援助(◎)

- ★ キャラクターになりきって遊べるよう、幼児のイメージに合った衣装や身に付けるものを一緒に探したり自分たちで準備や片付けができるように保育室の一角に道具の置き場所を設けたりする。
- ★ 幼児同士が相手の思いや考えを知る機会が持てるよう、じっくりと話し合う時間を保障する。
- ◎ 自分の思いや考えを主張し合う場面では、仲介に入り、相手の思いや考えがあることに気付かせ、受け入れられるようにする。
教師の具体的な援助→共感・振り返り・考え合えるような言葉かけ・客の立場からの感想・他者の考えに気付かせる

実践2の分析

幼児同士のトラブルの仲介に入り「どうしてそうなったのかな?」「どうすれば良かったのかな?」など、自分の行動を振り返る言葉かけや自分の思いを言ったり相手の思いを聞いたりしながら考え合う機会を作った。そうすることで、相手のやりたいことが分かり相手の思いや考えを受け入れながら、役割を分担したり協力したりしながら遊びを続けようとする姿につながった。

実践1・2の改善点

- ・ 幼児同士が思い描いているイメージを友達と共有し、実現できるような道具や素材の提供と、遊びが広がるような場の工夫が必要である。
- ・ 幼児の遊びの様子や状況を見極め、幼児同士の思いをつないだり、幼児同士が考え合うきっかけを作ったりする具体的な援助の工夫を探っていく。

2 検証保育 (2回目 12月)

(1) 設定理由

前回の検証保育では、気の合う友達同士が思いやイメージを共有しながら遊びを進めていくためには、思いや考えを十分に引き出す援助や遊びのイメージに合った道具や素材の提供が重要であることがわかった。そこで今回の検証保育では、気の合う友達だけではなく、興味をもってやってみたい遊びに集まったいろいろな友達と思いやイメージを出し合う中で、共通の目的が生まれ、工夫したり協力したりする楽しさが味わえるような環境構成や援助の工夫を行いたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

いろいろな友達と共通の目的をもち、思いや考えを出し合い、試したり工夫したりしながら遊びを進めていこうとする。

(3) 検証のねらい

いろいろな友達と一緒に活動する中で、かかわりを深め、共通の目的に向かって、工夫したり協力したりしながら取り組む楽しさが味わえるような環境構成や援助の工夫をする。

(4) 検証保育の結果

実践3「いろいろな友達とイメージを具体化し、試したり工夫したりして遊ぶ」

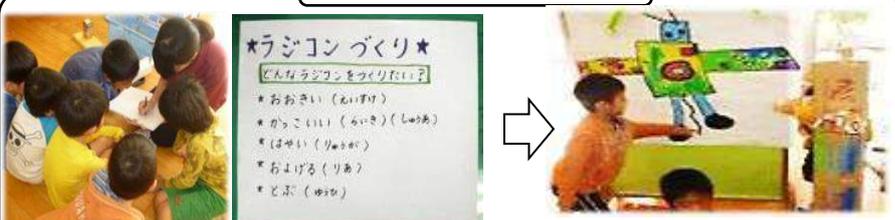
幼児の姿 (12月7日)

- ① 生活発表会があることを知り、興味をもってやってみよう遊びに集まった友達同士が、自分たちで考え合いながら取り組んでいる。その中で、以前から制作を好んでいた男児数名が「みんなでラジコンを作ろう」とラジコングループを結成した。
- ② 段ボールやいろいろな素材を集めたが、どう作り始めればよいのかわからず、教師は、一人一人の作りたいロボットのイメージを聞き出す。

教師の読み取り

- ① これまでは一人でじっくり取り組んでいた制作だが、人数が集まったことで仲間意識が生まれ、グループとして取り組もうとする気持ちの高まりが感じられる。

具体的な教師の援助と環境構成



「どんなラジコンが作りたい？」
一人一人の思い描いているイメージを聞き出し、文字で表す。

「設計図を描こう」
一枚の紙を用意し、みんなで話し合いながらイメージしているラジコンが描けるようにする。

- ② やりたいことやメンバーは決まったが、みんなで作るにはどのように始めればよいのかわからないのだろう。



- ③ 教師が一人一人の思い描いているイメージを絵や文字にしたことで作りたいラジコンのイメージが具体的になった。

- ③ 「こんなラジコンにしたい」というイメージが具体化されたことで、タマゴパックを羽に見立てたり速く走れるように動くタイヤを取り付けたりしながら、試したり工夫したりして作る姿が見られた。

環境構成(★)と教師の援助(◎)

★ 「こんなふうにしてみたい」などの幼児の思いつきやひらめきを大切にし、実現できるような素材と一緒に選んだり作ったりする。【例えば】 → はやい…タイヤと芯棒を用意し、速く動かす操作ができるようにする。

しっぽ…長さや硬さなど、イメージに合うような素材を探し、一緒に作る など

◎ 一人一人が思い描いているイメージを言葉にしたり絵や文字で書き出したりすることで、具体的なイメージをみんなで共有できるようにする。

【幼児のイメージを引き出す言葉かけ】 → 「どんなラジコンにしたい?」「(大きさ)どのくらい?」

「(かっこいい)どんなふう?」「どうすればできるのかな?」など

実践3の分析

教師が一人一人の思い描いているイメージを聞き出し、具体化したことで、幼児が自分たちで制作を進めることができ、「みんなで作った」「みんなでやっている」という意識が生まれ、友達とのかかわりが深まった。また、教師がアイデアを提供し、幼児の思いが実現できるよう一緒に作っていったことで、「できた」「やった」という喜びの声が聞かれ、達成感につながった。

実践4「いろいろな友達と思いや考えを出し合ったり、友達の思いや考えに気付いたりしながら、共通の目的に向かって遊びを進めていこうとするための具体的な環境構成と教師の援助」

遊びの振り返りをする

遊びを終えた後に振り返りの時間を設定し、それぞれの遊びの内容や作品の紹介などを行うことで、友達の遊びを知り明日の遊びへの期待につながった。

面白いよ!!
明日もやるから
見に来てね!



僕はドラゴンボール
ショーをしたんだけど
困ったことがあったよ…



こうすればいいんじゃないかな…

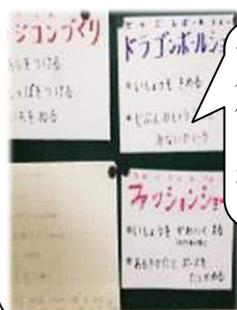


実践4の分析

遊びの振り返りでは、遊びの紹介に加え、困ったことや気付いたことなどを話せる場となるようにし、友達から出た色々な考えを知ったりアイデアを出し合ったりする機会となった。「面白そう」「明日は仲間に入りたい」「いい考え」などの声が聞かれ、気の合う友達だけではなく、いろいろな友達と遊ぶきっかけや友達のことを知ったりみんなで考え合ったりし、学級全体で共有できる場となった。

絵や文字で表し、掲示する

幼児同士がイメージを共有するためには、遊んでいる仲間と思いやイメージを伝え合うことが必要であるが、上手く伝わらない場合がある。そこで教師は、幼児の思いや考えを引き出し、紙に書き表したり、幼児が色や形などを具体的に表すことができるようにした。また、書いたものを黒板や壁などに掲示し、いつでも見たり書き直したりできるようにした。



それぞれのグループが今日何をするのかを話し合い、確かめられるように掲示する。



色や形、大きさなど、具体的に表すことができるよう、紙に書けるようにする。



グループで考えたことを紙に書き、いつでも自分たちで書き加えられるようにし、イメージがより具体化できるようにする。

実践4の分析

幼児同士が思い描いているイメージを共有し、実現できるようにするためには思いやイメージを引き出す援助は重要である。しかし、自分の考えを具体的に伝えることや相手のイメージを言葉で聞いて理解することは難しい場合がある。その際、書いて表すことは効果的であり、書くことで視覚的に見て理解しやすく、掲示しておくことでいつでも確かめることができ、更にアイデアがうかんだり遊びの継続につながったりした。

実践3・4の改善点

- ・少人数のグループや気の合う友達との遊びでは、自分の思いやイメージが伝わりやすいが、人数が増えると、それぞれの思いやイメージを共有することが難しい場合がある。そのため、幼児同士がイメージを共有できるような場面を見逃さず、その場面を捉えた上での環境構成や教師の援助が必要である。

3 検証保育（3回目1月）

(1) 設定理由

前回の検証保育では、興味をもってやってみたい遊びに集まった友達と「こういうふうにやりたい」というイメージを出し合い、話し合いを重ねる中で、試したり工夫したりしながら、遊びを創りあげていこうとする姿が見られ、友達とのかかわりの深まりが感じられた。

冬休みが明け、幼児は、正月遊びに興味・関心をもって取り組んだり、12月に行った生活発表会や冬休みの経験などを遊びに取り入れ、じっくり取り組んだり友達と一緒に楽しんだりしている。そこで、今回の検証保育では、学級の友達と見せ合ったり、他の学級の友達に見せたりできるような場を設定することで、学級の友達と、共通の目的の実現に向かって工夫したり協力したりしながら遊ぶ楽しさが感じられるような環境構成と援助の工夫を行っていきたいと考え設定した。

また、一人一人が発達の過程を通過できたか把握し、必要な経験ができるよう、個に応じたかわりを行っていきたい。

(2) 保育のねらい

学級の友達と活動する中で、共通の目的を見だし、実現に向けて、友達と思いやイメージを伝え合ったり役割を分担したりしながら、力を合わせて取り組む楽しさを味わう。

(3) 検証のねらい

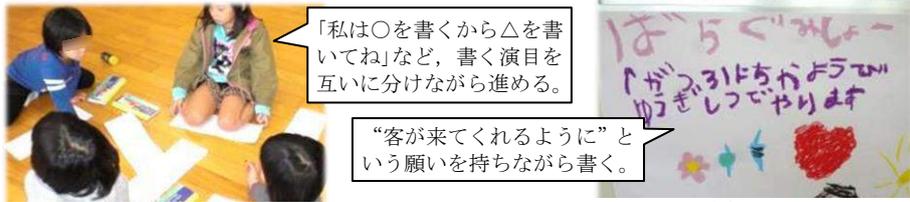
学級の友達と共通の目的を見だし、実現に向けて工夫したり協力したりしながら遊びを進めていくための環境構成と援助の工夫をする。

(4) 検証保育の結果

実践5「共通の目的の実現に向けて、役割を分担したり協力したりする」

幼児の姿(1月24日)

- ① 学級全体で相談を重ね、得意なことや自慢したいことを披露する「ばらぐみショー」の日程や場所が決まり、「楽しみ」「早くやりたい」などの期待や「できるかな」「自信ない」などの緊張や不安を感じている。
- ② 学級の集まりで、ばらぐみショーをするためにどんなものが必要かを話し合う。生活発表会やおたのしみ会などを振り返りながら、話し合いを進めていく。
- ③ 「ばらぐみショー」に必要なものが決まり、自分の作りたいものを友達と一緒に作り始める。「字が書けないから切る」「私は1番を書くから、2番を書いて」など、できることを探し、友達と分担しながら進めている。



「私は○を書くから△を書いてね」など、書く演目を互いに分けながら進める。

“客が来てくれるように”という願いを持ちながら書く。

プログラム作り

“映画チケットの様にしたい”との思いから文字を書く・点線を描く・切り込みを入れるなど、役割を分担しながら進める。

看板作り

大きさを色など、思い思いに工夫したり友達を真似たりして作る。

チケット作り

矢印作り

教師の読み取り

- ① 「ばらぐみショー」の日にちや場所が具体的に決まったことで期待や緊張、不安などの感情を味わっている。
- ② 経験したことを思い出ししながら、アイデアを出していく。友達の言葉がきっかけとなり、自分の体験を思い出すことにつながり、イメージがふくらんでいったのだろう。
- ③ 「あの子は字が書ける」「絵が上手に描ける」など、友達の良さや特性に気づき、自分のできることを見つけながら進めている。

環境構成(★)と教師の援助(◎)

★ じっくり話し合いながら取り組めるようにそれぞれが作る場所を設ける。また、マジックや色画用紙、折り紙などの色々な素材を用意し、アイデアを出し合いながら試したり工夫したりして作れるようにする。

◎ これまでの経験を振り返らせ、一人一人の思いつきやアイデアを拾い、他児にも伝えていく。

◎ “たくさんのお客様に来てほしい”という願いをくみ取り、そのためにはどうすれば良いかを一緒に作っている友達と考えたり試したりしながら作れるようなきっかけとなる言葉をかける。

きっかけとなる言葉かけ → 「何て書いたらお客様はわかるのかな?」「いくつあればいいのかな?」「映画のチケットのように切りやすくするためには?」 など

実践5の分析

「ばらぐみショーをする」という共通の目的が生まれ、その目的の実現に向けて必要なものを考えたり準備したりすることに取り組んだ。その中で、友達のやっている姿を見ながら、自分にできることを見つけたり、友達と「こうした方がいい」などと工夫したり「○はやるから、△はやってね」などと協力し合ったりし、意欲的に取り組む姿につながった。

実践6「友達の過程を通過したかを把握し、必要な経験ができるような個に応じたかかわり」



大方の幼児は、IV期を通過し、V期を通過中である(表1参照)。その中で、R男は「コマ回しをする」と決めたがなかなかやろうとせず別の遊びをしたりその場から離れてしまったりする。

環境構成(★)と教師の援助(◎)

★ 手回しゴマや糸引きゴマなど、色々な種類のコマを用意し、興味・関心が向くようにする。

◎ 一対一で時間をかけてかかわり、コマを回せた喜びや“やってみたら自分でもできた”という成功体験を味わわせ、コマ回しは楽しいと感じられるようにする。



コマを回せた喜びを繰り返し味わうことで楽しさを感じたR男は、友達とコマ回しを楽しむようになった。そのことで、友達からの刺激を受け、技に挑戦しようとする姿も見られるようになった。

実践6の分析

R男はコマ回しを通して「一人ではできないけど先生と一緒にやるとできる(安心感)」→「一人でもやってみよう(挑戦)」→「一人でもできた(成功体験)」→「楽しい(達成感)」という過程をたどり、その経験をしたことで、友達とのかかわりが生まれた。教師が一つの遊びを通して、R男の求めていることを捉え、経験させたいことを踏まえた上で、個別の援助を行ったことでV期に向かおうとする姿につながったと考える。

4 検証保育（本時）の展開

(1) 本時の日案

日 案		八重瀬町立東風平幼稚園 平成 29 年 1 月 26 日(木) 5 歳児 ばら組 男児 14 名 女児 8 名 計 22 名 担任 本部笑子	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループの仲間と互いの思いを伝え合いながら遊びを進めている。遊びのイメージはあるものの共有できず、遊びが停滞しているグループもある。 遊びに必要なものを自分たちで準備したり、身に付けたりする姿が見られ、遊びの楽しさを味わっている。 「ばらぐみショー」の日程や場所が決まり、必要なもの(プログラム・チケット・看板など)の準備を友達と役割を分担しながら進めている。 	ねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを伝えたり友達の話の聞いたりしながら遊びを進めていく楽しさを味わう。 ・自分の思いや考えを話したり相手の思いや考えを聞き、受け入れたりする。 ・遊びに必要なものをそろえたり場を構成したりする。 ・やりたい遊びにじっくりと取り組む中でできた喜びを味わったり遊びの楽しさを感じたりする。 ・「ばらぐみショー」に向けて、考えたりアイディアを出し合ったりしながら目的を共通にしていく。
時間	○予想される幼児の活動	・遊びの様子	★環境構成の工夫 ◎教師の援助
8:00	○順次登園する ・挨拶をする ・身支度を整える ・水やりをする	◎あいさつを交わしながら、一人一人を気持ちよく迎え、健康状態を視診する。 ◎上着の調整に気付かせたり、ハンガーにかける・たたむなどの習慣が身に付くように言葉をかけたり一緒に行ったりする。	
9:00	○学級の集まりに参加する ・絵本を見たり歌を歌ったりする ・教師や友達の話聞く ○「ばらぐみショー」に向けて ・ダンススクール ・人形劇(ペープサート) ・たたかいごっこ ・コマ回し	◎絵本の読み聞かせをしたり歌をうたったりするなど、学級のみんなどいこと楽しさや学級の一員であることが感じられるようにする。 ◎昨日の遊びを友達と継続して楽しめるよう、話題にしたり紹介したりする。	
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ダンススクール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と顔を見合わせ、かけ声や振りを合わせたりしながら、音楽に合わせて踊ることを楽しんでいる。 ★「可愛くしたい」「たたかいごっこ」みたいに何か付けたいなどの言葉から、イメージに合った身に付けるものや衣装と一緒に探したり作ったりする。 ◎友達と音楽を決め、音楽に合わせて踊りを楽しんでいる姿を見守り、必要に応じて振り付けのアイディアを提供したり客として遊びに加わることで工夫しているところをほめたり認めたりしながら自信につなげていく。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>人形劇(ペープサート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読む、人形を動かすなど、役割を分担しながら取り組んでいる。客に見せることを喜び、張り切って演じる姿が見られる。 ★演じている様子や“こうだったらいいのにな”という思いが実現できるよう、自分たちで作ったりそろえたりできるようなアイディアを提供する。 ◎張り切って進んでいる姿を見守り“見せたい”意欲が満足できるよう客として参加する。その際、感想を伝えることで更に工夫したり協力したりすることができるようにする。 </div>
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>たたかいごっこ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが忍者やヒーローになりきって、戦うことを楽しんでいる。「見せる」「ショー」として演じているがイメージが共有できず「意味がわからない」などのつぶやきが聞こえる。 ★たたかいごっこに必要なものをそろえたり作ったりできるように素材や道具を用意しておく。 ◎相手の思いを受け入れたり自分の考えを調整したりしながら、イメージを共有していけるよう、十分に引き出し、他児に伝えていく。 ◎自分の考えを一方的に伝え、進めようとする幼児には、相手の思いに気付けるような言葉をかけをし、気付かせていく。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>コマ回し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回せるように繰り返し練習したり友達に教えてもらったりしながら取り組んでいる。また、友達と一緒にコマを下敷きや板に乗せる技に挑戦している。「ばらぐみショー」に向けてできるようになったことを見せるといふ気持ち少しづつ見られるようになってきた。 ★表示を活用し、繰り返し挑戦できるようにする。 ◎回し方のコツを伝えたり一緒にやったりすることで上手になった実感やできた喜びを味わわせる。 ◎友達と教え合ったり一緒に色々な技に挑戦したりしながら取り組めるよう言葉をかけていく。 </div>
10:10	○片付けをする		
10:20	○学級の集まりに参加する ・教師や友達の話聞く ・自分なりに考えたり思いを話したりする	★遊びが継続できるよう、遊びに使ったものを全てを片付けるのではなく遊びのコーナーごとに整理をして置いておく。 ◎遊びの振り返りでは、遊んでいる中で工夫したことや良かったこと、困ったことなどを話し合う場をもち、学級のみんなどで考えたり楽しさを共有したりする。 ◎学級のみんなどで遊びが共有できるように教師や友達の話しがじっくりと聞けるよう、必要に応じて言葉をかけていく(R男・Y男・R斗)。	
評価	○互いに思いや考えを伝えたり、聞いたりしていたか。	○友達と一緒に遊びに必要なものを用意したり、場を構成したりして遊びを進めていたか。	

(2) 本時の展開

検証のねらい	幼児の姿	★環境構成 ◎教師の援助	検証結果
<p>学級の友達と共通の目的を見だし、実現に向けて工夫したり協力したりしながら遊びを進めていくための環境構成や援助の工夫をする。</p>	<p>・グループの仲間と遊びを進める楽しさを感じ、場を構成したり張り切って演じたりしている。</p>  <p>お客さんがたくさんいるから、イスをたくさん並べよう!</p> <p>・繰り返し練習したり友達と技に挑戦したりしながら、できた喜びやきかない悔しさを味わう。</p> <p>・友達と思いやイメージを伝え合い、共有しようとするが考えが上手く合わないもどかしさを感じている。</p>  <p>仲間とストーリーについて話し合い、決めていく。</p>	<p>◎客として参加し、感想を伝えることで更に工夫したり協力したりすることができるようにする。</p> <p>★幼児のつぶやきや声を拾い、それぞれのイメージに合った身に付けるものや衣装と一緒に探したり作ったりする。</p> <p>◎コツを伝えたり一緒に回したりすることで上手になった実感やできた喜びを味わわせる。また、友達と教え合ったり一緒に色々な技に挑戦したりしながら取り組めるよう言葉をかけていく。</p> <p>★コーナーに表示を掲示し、じっくりと取り組んだり繰り返し挑戦したりできるようにする。</p>  <p>◎それぞれが思い描いているイメージを十分に引き出し、相手の思いを受け入れたり自分の考えを調整したりできるようにする。</p>	<p>・幼児のつぶやきや声を拾ったり遊びの展開を予想して表示を作ったりしたこと、一人でじっくり取り組んだり友達と何度も挑戦したりする姿が見られた。</p> <p>・教師がアイデアを示したり確かめたりする場を何度も設定することで、イメージが共有されつつある。</p>
<p>検証結果の分析</p>	<p>教師は幼児の活動の状況を見極め、イメージを共有できるように仲介役となったり表示を活用し“やってみよう”意欲を引き出したり友達とかかわるきっかけとなるように工夫した。そのことが、自分の思いや考えを伝えたり相手の話を聞いたりしながら、仲間と活動を進めていこうとする姿につながった。</p>		

実践7「演じたり表現したりする楽しさを味わいつつ『みんなでできた』達成感や満足感を味わう」

幼児の姿 (1月31日)「ばらぐみショー」当日	教師の読み取り
<p>① チケットを配布し、会場の入り口で半券を取る役の子、席へ案内する子、入り口のドアの開閉をする子など、自分たちで役割を分担している。</p> <p>② 司会がやりたいと集まった4名がプログラムを紹介する。生活発表会やおたのしみ会などのこれまでの経験から「せーの!」と声をそろえ、「次はコマ回しです」など、普段より大きな声で話す姿が見られる。</p> <p>③ 司会の言葉に合わせて、それぞれのグループが舞台上で登場し、客の反応に照れたり恥ずかしがったりする素振りを見せるものの最後まで張り切って演じている。</p> <p>ばらぐみショーを終え、学級での振り返りを行い、良かったところ、楽しかったところなど、ばらぐみショーをやったの感想を話す場を設ける。「最後まで踊れてよかった」「コマが回せた」「お客さんがたくさん来てくれて嬉しかった」などの声が聞かれた。</p>	<p>① 張り切ってイスを用意したり“客を迎える”という立場で考えたりする姿から気持ちの高まりが感じられる。</p> <p>② これまでの“できた”という経験やほめられたり認められたりしたことが自信となり、意欲的である。</p> <p>③ 緊張しながらも披露できた喜びや“学級のみんなでばらぐみショーができた”という達成感を味わっている。</p>

環境構成(★)と教師の援助(◎)

- ★イスの配置や道具のセッティングなど、幼児に任せつつ、一緒に確かめたりアドバイスをしたりする。
- ◎ナレーターとして参加し、演技の解説や場面の雰囲気盛り上げたり、音響係や舞台の暗幕の開け閉めの操作など、幼児の手が行き届かない部分のサポートをしたりすることで、一人一人が思い切り演じることができるようにする。
- ◎グループの仲間と協力しながら進んでいる場面を十分にほめたり認めたりすることで、友達と一緒にやる喜びや“できた”という満足感が味わえるようにする。

実践7の分析

学級のみんなで「ばらぐみショー」に向けてグループでの練習や話し合いを重ねていく中で“見せたい”という思いや“グループの仲間と頑張る”という気持ちが生まれ、期待感を感じていた。そのことがショーの中での張り切る姿や自信を持って演じる姿につながったと思われる。また、振り返りでの「楽しかった」「嬉しかった」という感想から力を合わせてやり遂げた達成感や満足感を味わったことがわかった。

Ⅶ 成果と課題

1 研究の成果

- (1) 葛藤の場面では、教師が幼児の思いやイメージを十分に引き出し、焦らず丁寧にかかわったり幼児同士が伝え合う場面を作ったりしたことで、相手の思いや考えを知り、折り合いをつけ、受け入れるようになった。
- (2) 教師が遊びに必要な教材や道具をそろえたり掲示の工夫を行ったりしたことで、いろいろな友達とイメージを共有しながら遊びを進めることができるようになった。
- (3) 遊び終わった後に学級全体で遊びの振り返りを行ったことで、友達の遊びを知ると共に、楽しさを共有したり困ったことなどの解決に向けて考え合ったりする時間となり、遊びの期待につながった。
- (4) 幼児が共通の目的の実現に向けて友達と遊びを進めていく中で、試したり工夫したりする姿や伝え合ったり役割を分担したりする姿が見られ、友達と協力しながら一つのことをやり遂げる達成感や満足感を味わうことにつながった。
- (5) 幼児一人一人の行動や友達とのかかわりなどから発達の過程を振り返り、その時期に必要な経験ができるような環境構成や援助の工夫を行ったことで、次の発達の過程へ無理なく移行できる手立てとなり、個の育ちを促すことができた。

2 今後の課題

- (1) 2年保育の教育課程を踏まえた上で、4歳児から共通の目的を見いだして遊ぶことにつながる経験を探り、見通しをもった環境構成と援助の工夫を行う。
- (2) 幼児一人一人の発達の過程を、幼稚園教育要領の示す5領域と関連付けて捉え、長期的な見通しを持ちながら、発達に必要な経験ができるよう個に応じた丁寧な援助を行う。



〈主な参考文献〉

- | | | | |
|--|-----------------------------|---------|-------|
| 西久保礼造 著 | 『改訂保育実践用語事典』 | ぎょうせい | 1995年 |
| 柴崎正行 著 | 『保育環境のくふう』 | Gakken | 2002年 |
| 国立教育政策研究所教育課程研究センター
文部科学省 | 『幼児期から児童期への教育』 | ひかりのくに | 2005年 |
| | 『幼稚園教育要領解説』 | フレーベル館 | 2008年 |
| 無藤隆・柴崎正行 編 | 『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』 | ミネルヴァ書房 | 2009年 |
| 兵庫県教育委員会 | 『指導の手引き 人とのかかわりを豊かにする教育の推進』 | | 2010年 |
| 〈www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/.../youtiennsidounotebiki.pdf〉 | | | |
| 高嶋景子・砂上史子・森上史朗 編 | 『子ども理解と援助』 | ミネルヴァ書房 | 2011年 |
| 無藤隆 監修 | 『事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』 | 萌文書林 | 2014年 |